

メッセージ

ユーザ、開発者を問わず、多くの情報システムに携わる人々にとって、情報システム開発プロジェクトは失敗が付きものであると当たり前のように語られます。果たして、本当に失敗が当たり前なのでしょうか。

情報システムの開発やサービスを提供する、いわゆる「受託企業の立場」でITビジネスに携わる中、私たちは多くの成功と共に、多くの失敗を経験してきました。失敗の要素はヒト・モノ・カネ・時間等様々です。また、十分吟味されたヒト・モノ・カネを投入しても、十分と思える時間を費やしても、失敗するプロジェクトはあります。だからこそ「失敗が付きもの」なのでしょうけれども、そういったプロジェクトに共通して言えることは往々にして「コミュニケーションに問題を抱えていた」ということです。

表面的には失敗と扱われない場合でも、コミュニケーションが十分ではないプロジェクトは多くの無駄にあふれて

います。「正しい情報による正しい判断」が行われず、そのために、IT投資は満足いく効果が得られないこともままあります。これもプロジェクト本来の目的を考えた場合、失敗と捉えて良いでしょう。

IT技術者としてITを愛してやまない私たちは、「受託企業の立場」で積み上げた様々な経験を、コミュニケーションの最上流である「ユーザ企業の立場」で活用することを主たるサービスとして位置付けプライム・ブレインズを設立しました。コミュニケーション不足によるITプロジェクトの失敗を撲滅し、お客様のビジネスの発展に寄与することが、私たち株式会社プライム・ブレインズの責務であると考えています。

社運をかけたITプロジェクトの立ち上げ、ベンダーの動きが見えなくなりつつあるITプロジェクトの立て直し等、ITプロジェクトの様々な局面での貢献をお約束します。

代表取締役社長 五反田 基秀

企業理念

- ◎ ITプロジェクトのマネジメントに対するソリューションの提供および推進支援を通じ、あらゆるITプロジェクトの改革に貢献する。
- ◎ プロフェッショナルとして常にスキル向上に努め常にお客様にとっての最適な提案を行う。
- ◎ プロジェクト・コミュニケーションスキームに関する情報発信・ソリューションの提供により広く社会に貢献する。

Prime Brains
behind your successful IT project

株式会社プライム・ブレインズ

<http://www.primebrains.co.jp>

〒104-0032
東京都中央区八丁堀3丁目22番11 八重洲第三長岡ビル
TEL. 03-5542-0520
FAX. 03-5542-0521
E-mail. info@primebrains.co.jp

<特定派遣届出受理番号>特13-310204
<東京商工リサーチ>32-227595-4
<帝国データバンク>267003262



Prime Brains
behind your successful IT project

ITプロジェクトの 原動力。

ユーザ企業の立場で、ITプロジェクトを成功へ導く。





お客様のステアリングを受け、ITプロジェクトを円滑に運行する。

家を建てる際には施主として大手ハウスメーカーや工務店、また少しデザインにも拘りたいという時には建築設計事務所に相談するという様に、色々な選択肢があります。情報システムを構築する際にも同様に、大手SIerにリスク込み・丸抱えで委託するという形態だけでなく、中小規模だけれども専門家に任せたいというく建築設計事務所(弊社)+工務店(ソフトウェアハウス)>という選択肢があるべきだと私たちプライム・ブレインズは考えます。デザインのわがままを聞いてもらうだけでなく、材料を工夫して

価格を抑えたり、最適な工務店を選んでもらったり、自分の代わりに工務店(ソフトウェアハウス)との交渉をしてもらったりと、建築設計事務所の様なポジションでITプロジェクトの成功に向けてお客様と共に取り組みます。プライム・ブレインズは、マネジメントスキルだけでなく、最新のITスキルを兼ね備えた技術者がお客様の立場でお客様と共に、成功に向けてプロジェクトを推進します。私たちが目指すもの、それは「お客様の第一のブレインであること」です。

プライム・ブレインズの「ITプロジェクト支援」

ミッションは、ユーザ企業の情報システム部門等と同じ立場から、ITプロジェクトを支援・代行すること。

1 ITプロジェクトマネジメント代行

- ◎プロジェクト計画・テスト計画・リリース計画等、各種計画の立案および、計画に即した管理・推進もしくは支援
- ◎ユーザ企業様の内部関係部署を含む関係先調整の支援
- ◎開発ベンダーのコントロール

2 ITプロジェクト技術支援

- ◎情報システム構築における採用技術の選定、ベンダー提示方式の技術評価
- ◎採用ベンダーの技術力に不安がある場合等、必要に応じて設計・開発・テスト段階でのベンダーに対する技術支援

3 ITプロジェクトコミュニケーションスキームの構築支援

- ◎プロジェクト体制にマッチした会議体系の確立・定着化
- ◎要件の明確化と開発体制への確実な連携
- ◎関係者間的確な連絡体制(課題管理・変更管理)の確立・定着化
- ◎会議により発生したアクションを漏れなく実施するための情報連携スキームの確立・定着化

4 要件定義・基本設計支援/小規模開発受託

- ◎ITプロジェクト実行中に不足する要件定義・設計・テストリソースの補充
- ◎メインベンダーとの契約後に必要性が発覚した小規模開発案件等を機動的に対応

ITプロジェクトの推進力

IT技術とマネジメントを兼ね備えた第三の視点、それがプライム・ブレインズ。

ITプロジェクトを推進させるエンジンとなる

プロジェクト立ち上げから開発工程のベンダー選定や進捗・品質管理までを行う、第三の視点を提供します。

新しい技術を採用する場合、技術そのものを知っていれば本番システムに適用できるシステムが構築できるというのではなく、実際には、設計ドキュメントの構成やリリース方式・ルールの確立など、設計・開発以外のマネジメントが必要になります。ただし、これらのマネジメントはベンダー側の観点で組み立てられていることが多く、その場合、ユーザ企業として守らなければならない観点はなおざりにされています。しかし余程大手の企業でない限り、複雑度の高いプロジェクトのマネジメントには主たる業務として要員を確保できないというのが実情なのではありませんでしょうか。情報システム構築およびそのマネジメントの専門家の視点を持ち、お客様の目線で、お客様に代わって情報システム構築プロジェクトの立ち上げから、開発工程のベンダー選定や進捗・品質管理を請け負います。



プライム・ブレインズが技術者であり続ける理由

常に正しい判断をするために必要な、「技術力」と「プロジェクト読解力」。

お客様になり代わってITプロジェクトの管理を行うために、私たちが大事にしていることは「技術者でありつづける」ということです。ITプロジェクトマネージャであってもそれまで技術者であった人が、マネージャになると共に技術力向上に向けた努力を止めてしまうケースも多いようです。ITプロジェクトの管理の現場において、技術者でなくなったマネージャは正しい判断ができるのでしょうか。私たちプライム・ブレインズは対象となる情報システムの技術的背景や業務要件を担当者任せにはせず、いざとなれば自ら手を下して作り上げられるだけの背景(技術力と読解力)をもって、プロジェクトの管理に取り組みます。



<弊社コンサルタント保有資格例>

- 高度情報処理技術者(プロジェクトマネージャ)
 - 高度情報処理技術者(ITストラテジスト)
 - 高度情報処理技術者(システム監査)
 - 高度情報処理技術者(システムアーキテクト)
 - 高度情報処理技術者(情報セキュリティスペシャリスト)
 - 中小企業診断士
 - PMP(Project Management Professional)
 - ITコーディネータ / ITCインストラクター
 - IT Service Management Foundation(based on ITIL V2)
 - WebSphere Application Server V5.0 認定システムアドミニストレーター
 - WebSphere Studio V5.0 認定アソシエイト・デベロッパー
 - GIAC Secure Software Programmer - Java
 - Sun Certified Programmer for Java 2
- ※旧アプリケーションエンジニア含む

プロジェクト・コミュニケーションのハブとなる

ユーザ企業・ベンダー双方の利益となるコミュニケーションの構築。

- ◎プロジェクト体制にマッチした会議体系を確立する
- ◎要件を明確化し開発体制へ確実に連携する
- ◎関係者間的確な連絡体制(課題管理・変更管理)を確立する
- ◎会議を記録し、記録の承認を行い、発生したアクションを漏れなく実施する
- ◎プロジェクト状況の把握とプロジェクトオーナーへの報告および対策協議を行う

ITプロジェクトでは往々にして、上記の様なコミュニケーションスキームの確立はおろそかになりがちであり、社内品質管理規定やフレームワークがあったとしてもそのルール通りに適用されていないという状況も散見されます。プロジェクトの状況に応じたプロジェクトコミュニケーションのスキーム作りをお手伝いすると共に、実際にITプロジェクトの中で技術および管理の専門家としてコミュニケーションのハブとなる、これが、プロジェクト管理を行う上で私たちがお客様にご提供できる大きな価値であると考えています。

